

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	新潟県	市町村名	上越市	大学名	
派遣日	令和3年2月19日(金曜日) ※大雪の影響により延期 【研修会1】 14:00~14:45 初期指導プログラムの作成、実施方法に関する協議 【研修会2】 15:00~17:00(質疑応答15分含む) 外国につながる子どもたちへの日本語教育 (別紙参照)				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 派遣 / <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔				
派遣場所	上越市教育プラザ研修室(研修棟2F)(サテライト会場) Zoomによるオンライン講習				
アドバイザー氏名	築樋 博子 先生				
相談者	上越市共生まちづくり課 副課長 古川 浩子、主事 中村夏美 (公社)上越国際交流協会 日本語支援員 保坂実千代、笹川奈穂子 事務局長 佐藤睦子 学校日本語支援の委託元 上越市教育委員会 担当児童主事 東條善夫 学校日本語支援アドバイザー 上越教育大学准教授 原瑞穂				
相談内容	【研修会1】 14:00~14:45 初期指導プログラムの作成、実施方法に関する協議 【研修会2】 15:00~17:00(質疑応答15分含む) 外国につながる子どもたちへの日本語教育 ①初期支援・指導の方法 ②日本語と教科の統合学習の方法 ③特性のある子どもへの支援・指導				
派遣者からの 指導助言内容	【研修会1】初期指導プログラムの作成、実施方法に関する協議 当市で作成中の初期指導プログラムを見ていただき、以下のご指導をいただいた。 ・教師の立場から子どもの状況に合わせて、子どもことばを抽出しているのは正しい。 ・初期指導のサバイバル日本語の教育の考えとしては、子どものニーズに合わせて、生活上の必要性・緊急性~必要な表現を選定するとい ・①健康・安全、②関係づくり ③学校生活などの実際の場面を示し、聞かせたり、言わせたりして言葉を入れていく。整理の仕方を参考までに示した。 ・当市の初期指導プログラムの作りとしては、教師としての立場からではなく子どもの立場から見て、大きく「何ができるようになるか?(Can do)」が大切。「あいさつの指導」にしても、言葉が単に言えた言えないだけでなく、場面に応じた挨拶ができる(朝はおはよう、帰りはさようなら、など)ことが目的としては大切。 サバイバル日本語の子どもには、「できる」「できない」だけで判断できないことが多い。評価として負担も大きい。第2言語の習得には「沈黙期」という時期もある。評価に「話すことができる」「聞いて理解できる」段階的に示したらどうか。教師もわかりやすい。				

- ・「簡単な自己紹介ができる」という授業にして、「クラスで自己紹介をしてみよう」「校長室で自己紹介してみよう」という場面を作って、「できる」とするといい。
- ・体調の訴えについては「痛い」「苦しい」だけが言えてもいい。もっとできる子は体の部位を入れて「〇〇が痛い」としてもいい。「母語対応の指さし帳で言える」「ジェスチャーができる」でもいい。
- ・学用品の名前を覚える授業では、名前を覚えたら「〇〇ありますか」「〇〇を出して」「〇〇をしまって」につなげる
- ・数字を覚えたら、「数字をどの場面で使うか？」を想定して教える。
- ・家族の言い方について、家族のいい方を覚えたことで「何ができるか」を考える。「〇〇さんは、やさしいです」とか特徴につなげてたり、「私の家族は〇〇さんと〇〇さんと〇〇さんです」と家族の紹介にもつなげたりする。
- ・初期指導プログラムの設計は実際の場面で考えて、組み替えて作成したらどうか。
- ・タブレットが普及してくるので、PPTなどを利用して動く教材を使ってみたらどうか。遠隔地支援や雪国の当市の場合、有効利用ができるのではないかな。
- ・短くわかりやすい言葉を心がけたい。

【研修会2】外国につながる子どもたちへの日本語教育

はじめに 特別支援学級に在籍する外国籍の子どもの割合

「日本語ができないことは特別支援の対象」としている例や、日本語が理解できないため、障害があるかどうかの見分けが難しいのが現状

1. 公立小中学校への就学
2. 「特別の教育課程」としての日本語指導

児童生徒が日本語で学校生活を営み、学習に取り組めるようになるための指導

3. 指導計画の作成
4. 発達段階による言語習得の特徴

・『DLA～外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント』の紹介と日本語の力をどう判断するかについて学習目標例と指導のヒントを学んだ。

5. サバイバル日本語・生活適応指6導

実際の場面を示し、そこで使用する日本語の語彙や表現を聞かせ、それをそのまま繰り返して言う練習をするというプログラムは参考にしたい。「三角巾の被り方」「サバイバル日本語」の活動例は、子どもたちが楽しく活動しているのが伺え、多くのヒントを得ることができた。

6. 7. 日本語基礎の指導（文字・語彙・発音・文型）

文字指導、日本語多読ライブラリーの活動例や日本語支援の悩みである非漢字圏出身児童生徒の漢字学習の活動例とテキストの紹介、漢字の習得が進まない児童生徒へのアプローチの方法についても子どもの特性に応じることのヒントをいただいた。

また、日本語と他言語との文の構造を知ったうえで、①短く単純な構造の文から、徐々に長く複雑な構造の文へと教える。②・名詞文、動詞文、形容詞文の肯定文、否定文、疑問文を教える。③いつ、誰と、どこで、どのように、どうしてという要素を加えていく。語彙も含めて、①～③の文型と文型の教え方について活動例を9つ紹介いただいた。また、PPTを使った文型学習の方法についても、すぐに実践に移せるような数多くの

	<p>例を紹介いただいた。</p> <p>8. 技能別日本語の指導 書く・話す 短冊作文の段階から、入試作文に至るまでの活動例を紹介いただいた。</p> <p>9. 日本語と教科の統合学習の指導 当市の現状としては、「日本語と教科の統合学習・JSL カリキュラム」については、大きな課題である。授業づくりの考え方や活動例、参考資料を数多く示していただいたので、今後の参考にしたい。</p>
相談後の方針 の変化、今後 の取組方針等	<p>外国人少数散在地域である当県が、外国につながる子どもの数が全国 2 位の愛知県との違いをあげるとすれば、数が少ないために指導・支援の予算化ができない。ノウハウの蓄積が少ない。子どもが抱える課題や当事者の困り感が見えづらく潜在化の傾向にある。何よりも一番の問題は、通訳や多言語教員など支援に関わる人材の確保が容易でないということではないだろうか。</p> <p>日本語教育推進法が施行され 2 年目を迎えるが、来年度以降、高校への日本語教育も実施方向にあるこの時に、当協会のボランティア頼りの日本語支援ではなく、子どもたちの支援に関わる人材として学校の教員や教員の卵である学生にひとりでも多く外国につながる子どもの日本語教育に主体的に関わってもらいたいと願い、申請をお願いした次第である。とても貴重な機会を頂戴し感謝している。</p> <p>築樋先生から【研修会 1】でご指導いただいた初期指導プログラムについては、今年度、私共が教育委員会からの委託を受けて作成しているが、完成すれば、子どもたちが学校生活や必要な日本語習得をスムーズに開始できるスタートシステムが出来上がり、教員にもお願いすることも可能になる。そしてこれは子どもたちだけでなく、本プログラムに付随して続編の作成や、日本の学校文化のわからない保護者への対応プログラムや指導経験のない教員へのヒントなど波及効果を期待したい。</p> <p>また【研修会 2】では、詳細に豊富な活動例をご紹介いただいた。子どもの日本語力の定着に伴い日常会話ができる段階から、在籍学級の授業に参加できる段階までのプログラムや教科との統合の授業づくりにまで、教員等当事者の意識が向かい、実践を重ねてもらいたいという思いを込めて企画した。大いに期待したいところである。</p> <p>当市では対象の子どもの数が少ないため、思うように検証できないのが悩みではあるが、今回築樋先生からご指導いただいたことをもとにプログラムの再構成、見直しなど検証を重ねるとともに、受け入れ年齢によって違って来る初期指導プログラムや初期指導から日本語で教科の学習活動に参加できるまでのプログラムを当地の実情に合わせて整備することが今後の課題となるであろう。</p> <p>本会の感想として、今まで児童生徒への支援内容がどの程度学習者に適しているかという指標がなかったため、先生からの学習項目の例は自分の支援の振り返りとなり参考にしたい。参考資料や指導方法などを豊富に知ることができ、このような場所があることで安心して子どもと関わるができるという声があった。</p> <p>コロナ禍の影響も含め支援や授業での課題は山積ではあるが、教育委員会を中心に上越教育大学など関係諸機関と情報の共有等を密にし、共有理解のもとで連携して取り組めるこの環境は、子どもたちにとっても心強いと思う。今後ともこの体制が続くことを願っている。</p>